【特別対談】吉村和就×仲村修「プロローグ(GWJと KTJ)」

「グローバル・ウォーター・ナビ」の長期連載を終えて

2015(平成 27)年 4 月から「下水道情報」で連載してきた吉村和就氏の「グローバル・ウォーター・ナビ」は、昨年 11 月に掲載した第 98 回をもって終了となります。長期連載への感謝の意を込めて、小社特別顧問の仲村修が吉村氏と連載記事を振り返りました。

対談形式でお届けします。 (全4回)

- 第1回 プロローグ (GWJと KTJ) 付・能登半島地震について
- 第2回 水の国際(世界)会議・展示会
- 第3回 地球温暖化と水の災害 (干ばつ、洪水)、水に絡む国際紛争
- 第4回 水ビジネスの新しい展開を探る



グローバルウォータ・ジャパン (GWJ) の吉村氏 (右) と公共投資ジャーナル社 (KTJ) の仲村。1月27日、公共投資ジャーナル社にて

プロローグ (GWJ と KTJ)

母親が「湾生」という意外な共通点

編集部 8年7ヵ月にわたる「グローバル・ウォーター・ナビ」の長期連載、誠にありがとうございました。今回の対談は吉村さんのご指名で、当社の特別顧問、仲村修がお相手ということになりました。

吉村 対談のお相手としてお願いしたのは仲村さんです。仲村さんは業界を 熟知、また知識があって人脈も豊富、まさにウォーキング・ディクショナリ - (生き字引)のような方です。

仲村 吉村さんと初めてお会いしたのは、CWR(チャイナ・ウォーター・リサーチ)の内藤(康行)さんの紹介でした。吉村さんは城達也のジェットストリームの物まねをさせると天下一品と、内藤さんが紹介したのを覚えています。その後、懇親会でお会いして、執筆をお願いしました。グローバル・ウォーター・ナビの連載がスタートしたのは 2015 年 4 月ですから、もう9年近く前になります。

編集部 吉村さんの自己紹介からお願いします。

吉村 生まれたのは秋田市です。自宅の近く(裏庭)を旭川が流れていた。 一級河川の雄物川につながり、日本海に流れる川です。きれいな川で魚が溯 上してくるので、ヤスで衝いて魚を捕ったりしていた。中学、高校になるこ ろ、上流に住宅地や温泉宿などができて川が汚れてきました。きれいな川に 戻したい思いから中学では理科クラブに入った。秋田高校では放送部です が、大学は水をきれいにするために化学を選びました。

子供のころからモノ作りが好きで、鉱石ラジオや真空管ラジオを作って、 受信機で海外の放送を聞いていたラジオ少年でした。アマチュア無線は国家 資格が必要ですから、電波法などを丸暗記して、中学生の時に資格を取りました。中学時代は毎日、アマチュア無線をやっていた。Q符号という専用コードがあって、世界中の人と話せる。音声だけでなくモールス信号でも会話ができる。モールス信号はカンニングに最適です。指や瞼の動きでも伝えられますから(笑)。

仲村 吉村さんとは、母親が湾生(台湾生まれの引き揚げ者)というのが意外な共通点です。母の実家は福岡の金物商で、炭鉱不況から新天地を求めて台湾(高雄)に渡りました。当時、高雄には海軍の基地があって、御用商人として活躍したようです。

終戦後、台湾にあったすべての資産を没収されて、内地(日本)に強制送還されます。父の実家は愛媛のみかん農家で、戦後はそこに住み、自分は愛媛県で生まれた。しかし、赤ん坊の時に上京したので、記憶は東京からです。

幼少のころは多摩川の近くで育ち、仲間と魚やザリガニを捕っていた。当時の多摩川は水がきれいで、週末には大勢の釣り人がやってきた。10年くらい経って訪れると、どす黒い川に様変わりしていました。その光景は今も眼に焼き付いています。小学校、中学校時代は野球少年でした。高校でも水泳部と剣道部をかけ持ちして、スポーツばかりしていた。

吉村 私の両親が台湾花蓮港から引き揚げる時、祖父(故・吉村佐平)の総 資産は約40億円もありました。当時の財産目録など、接収された証書が残っています。吉村商店、吉村鉄工、吉村組など約15の会社を経営していた。花蓮第二信用合作社という金融機関も創っていて、2016年に創立100周年記念式典の招待状が孫の私に届き、妻と花蓮に行ってきました。井戸を掘った人を大事にする台湾の人々に感激でした。



花蓮第二信用合作社の創立 100 周年記念祝賀会。右端は吉村氏の奥様(写真:吉村氏提供)

荏原、国連を経て「組織に属さず一人でやろう」

編集部 吉村さんは秋田高校時代、NHK 全国高校放送コンテストで文部大 臣賞を受賞されています。

吉村 アマチュア無線をやっていたのでマイクの扱いには慣れていました。中学の運動会の日に、先生から急に放送を頼まれて、やってみると、君は声がいいと放送読本を与えられて勉強していた。その甲斐あって、秋田高校では NHK 全国高校放送コンテストの朗読部門とニュース部門で文部大臣賞を受賞しました。

編集部 秋田大学を卒業されてから水の仕事に就くまでを、ご説明いただけますか。

吉村 大学を卒業して、最初に合格したのは文化放送(コールサインは JO QR)です。落合恵子さん、みのもんたさんなどが活躍していました。試用 期間中に毎日、ニュースや天気予報の原稿を読まされた。これは男の仕事で はないと思っていたら、東北大学の遊佐教授から、私は荏原総合研究所の所長になるので、君も来ないかと誘われて、二つ返事で決めました。

所属した荏原インフィルコは、荏原製作所と米インフィルコ社の折半出資 の会社で、インフィルコ社の親会社はウエスチングハウスです。荏原インに 入って間もなく、チークさんというウエスチングハウスの重役が来て、趣味がアマチュア無線というので人事部長から案内役を頼まれた。もちろん会社の車を自由に使えて、食事代もすべて会社持ち、秋葉原に買い物に行くなど、やりたい放題でした(笑)。

当時の荏原インは驚くほど儲かっていて、大学や官公庁からも優秀な人材をリクルートしていた。水質汚濁防止法(1970年)ができたころで、水道、下水道、民間の廃水処理など一手にやっていたので、時流に乗った会社でした。

仲村 自分がいたころの早稲田は学生運動が荒れ狂っていました。70 年安保の改定があって、文学部の校内で革マル派がリンチ殺人事件を起こすなど、騒然としていた。授業は少人数で行うゼミくらい。そんな状況からアルバイトに精を出して、お金がたまると山登り(北アルプス縦走)を繰り返していました。

荏原インの話が出ましたが、公共投資ジャーナル社を創業(1976 年)したころ、荏原インの営業マンがよく会社に来ていた。創刊して間もない下水道情報を、本社、支社、営業所のすべてで購読するという、大変なお得意さんでした。

編集部 荏原製作所が荏原インを吸収したのは 1994 年。そのころ、荏原製作所はゼロエミッションを宣伝文句にしていました。

吉村 荏原インは儲かっていたのですが、親会社(荏原製作所)の経営が厳しくなって吸収合併の話が出ます。一番反対していたのは自分だったのですが、本社から経営企画部長の席を用意する。また藤村社長(当時)からは、国連大学とゼロエミッションをやるので君が担当しろと言われた。あらゆる廃棄物を資源とエネルギーに変えるのがゼロエミッションです。これを世界に広めたいというのが藤村社長の思いでした。

編集部 その後、国連ニューヨーク本部勤務になります。どんな経緯で、またどんな仕事ですか。

吉村 通産省からの要請でした。候補者は3人いたのですが、体が一番大きかったこと、英語で喧嘩のできるところが評価されて(笑)、私が選ばれた。国連にはその国を代表する論客が集まります。自己主張するのが仕事ですから、言いたい放題です。その人たちを納得させるのは数字と固有名詞です。あなたの国の上下水道の普及率は何パーセント、洪水の発生回数は何回と具体的な数字を示します。また過去に誰が何を言っていたと、ヒストリーを披露する。そうやって納得してもらうのです。会話はすべて英語、議事録は英語、時には仏語で書かなければいけないケースもあって、当初はノイロ

ーゼ気味でした。

カルチャーショックだったのは、国連の会議は議論を戦わせる場です。日本の会議は情報伝達の場ですから、全然違う。日本の会議は共通の知識を与えて終わり、向こうは会議で徹底討論して結論を導き出そうとします。

5年後、日本に戻って会議に出て、自分の意見を言うと、せっかく決まっているのに吉村は煩いと、次から会議に呼ばれなくなった。国連では会議に出て黙っていると、せっかく場を与えているのに、意見がないのなら会議に出る必要はないと言われました。

2005年に組織に属さず一人でやろうと辞表を出したら、社長と会長から呼び出された。「君は経団連の委員会や産業機械工業会の委員、経産省の地球温暖化の委員を会社の代表としてやっていた。勝手に辞められては困る、子会社の社長になれ」と言われましたが、もう組織はいいと、辞める気持ちは変わらなかった。



国連職員時代の吉村氏(後列中央)。2000年9月、ニューヨークでの国連 ミレニアムサミットに参加した森喜朗首相(当時)から、国連の邦人職員が 晩さん会に招かれた(写真:吉村氏提供)

1976 (昭和 51) 年に「週刊下水道情報」を創刊、地方に軸足

編集部 公共投資ジャーナル社の創業までの経緯を、ご紹介いただけますか。

仲村 大学の2つのゼミが、その後の生き方に影響を与えました。一つは民法の篠塚ゼミ。公害訴訟があって、川崎市の環境保全条例を調べて報告するという課題が与えられ、初めて長文のレポートを書いた。その時の一連の行動が、その後の仕事の原形になっている気がします。もう一つは会社法の奥島ゼミ。古き良きワセダマンを彷彿させる先生で、面倒見がよく、4年の時に大手の金融会社を紹介するから行かないかと誘ってくれた。丁重に辞退して、自分の足で歩いていこうと決めました。奥島(孝康)先生はその後、早稲田の総長になります。自民党の下水道・浄化槽対策特別委員会の委員長を務める山本有二議員は、奥島ゼミの3年後輩。今も先生を師と仰ぎ、交流を続けています。

大学を出て社員 80 人くらいの INA(Industrial News Agency)という通信社に入り、国土版に配属されて下水道記者になった。下水道担当は自分が初めて、新人に新しい分野を開拓しろという無茶な業務命令でした。キャップは 3 歳年上の早大法の先輩で、アルバイトで入社して仕事が面白くなり中

途退学して社員になっていた。 2 年足らずで自分が退職願を出すと、その先輩が「お前が辞めるのなら、俺も辞める。一緒に会社を創ろう」と誘った。どうしたものかと悩んだ末に、これも何かの縁と、一緒に創ったのが㈱公共投資ジャーナル社(KTJ)です。 1976 年 4 月に設立し、 5 月に「週刊下水道情報」を創刊した。荏原インと同様、時流に乗って一気に部数を伸ばしました。

一 着実にシェアアップの投資規模 —

発行所 公共投資ジャーナル社 本 社 東京都十代田区三崎町2-2-15 電 話 03(261)8066(代) 購読料 年間 38,000円

「日」でいる。発達は新事業を動作を必ず 次 (流域下水道) 首都圏16流域下水道の51年度発注計画を追う<上> 2 東京都 多摩川流域下水道 荒川右岸東京流域下水道 神奈川県 相模川流域下水道 酒匂川流域下水道 (公共下水道) 首都圏3大都市の51年度予算と実施計画 東京都 横浜市 川崎市の51年度事業 実施設計費は処理場、ポンプ場合せて8,000万円 (日本下水道事業団) 5 1 年度の新規受託箇所は 1 3 カ所を予定 流域は天神川、指定都市は神戸市、北九州市 一般に飯能市、大和市、黒磯市など10カ所 下水道事業団、設計基準の第1次案を策定 -----9 発注件数は土木109件、電気37件、水処理31件など 建設省、都市局関係事業予算の配分額を決定 ------10 公共下水道の新規41カ所も同時に公表 北海道の51年度、流域、公共下水道予算 ………………………………………………………10 沖縄の下水道事業、2次処理の完全実施が目標 …………………………………………………………14 (企業動向) 日本鋼管、3次処理プラントの企業化近づく 日立機電、下水道事業の将来性に期待し注力 新製品、グリットバケットカーと沈砂搔揚機 長期経済計画と下水道整備 「週刊下水道情報」創刊号

吉村 荏原製作所を退職後、船橋のハローワークに行ったら、国連で働いていたような人は国が関わる人材バンクに登録した方がいいと教えられた。人材バンクに登録してみると、外資系の会社から次々に電話がかかってきた。 GE ジャパンや薬品のナルコなどの大手企業で、待遇は驚くほど良かった。 しかし組織はもういいと、千葉西税務署に行って自営業の届けを出した。係官が屋号は何にしますか? と聞くので、世界と日本を水でつなぐ「グローバルウォータ・ジャパン」と即決して、弁理士に商標登録をお願いした。 2 005 年ですから、もう 20 年くらい前になります。人材バンクにオファーのあった会社などを今度はクライアントにして、最初から経営は軌道に乗りました。

編集部 KTJも創業早々から一気に部数を伸ばしたと。どんな策があったのでしょう。

仲村 コンペティターは水道新聞社、水道産業新聞社、環境新聞社の水3紙でした。水3紙は中央の情報を地方に向けて発信していた。後発なので、K TJは地方に軸足を置いて中央に向けて情報発信しようと真逆の編集方針を 立てて、地方取材を繰り返した。また、入落札情報や下水処理場、ポンプ場 の施設情報を集めて、データベース化していった。新聞社とバッティングしない、すき間を狙った情報収集に努めました。

吉村 荏原インの下水道部隊に、吉水さんという元気な部長がいました(吉水一派)。東北大の出身で、僕は秋田ですから手伝えと。その時、吉水部長から公共投資ジャーナル社にはいろいろなデータがあるからしっかり勉強しろと言われた。公共投資ジャーナル社は、地方営業に力を入れていた荏原インが注目していた会社でした。

(次回は「水の国際(世界)会議・展示会」)

吉村 和就 (よしむら・かずなり)

1948 (S23) 年秋田市生まれ。秋田大学教育学部(理科・化学研究室)卒業。1972 (S47) 年荏原インフィルコ㈱入社、1994 (H6) 年㈱荏原製作所本社経営企画室部長。営業、開発、市場調査、経営企画に携わり、環境分野ではゼロエミッション構想を日本に広げた。1998 (H10) ~2001 (H13) 年には国連ニューヨーク本部に勤務し、環境審議官として発展途上国の水インフラを指導する。2005 (H17) 年グローバルウォータ・ジャパン (GWJ)設立。水の安全保障戦略機構・技術普及委員長、経済産業省「水ビジネス国際展開研究会」委員などの要職も務めた。「水ビジネス 110 兆円水市場の攻防」(角川書店)、「日本人が知らない巨大市場 水ビジネスに挑む」

(技術評論社)、「水に流せない水の話」(角川書店)、「水ビジネスの動向とカラクリがよーくわかる本」(秀和システム)、「GLOBAL WATER NAVIGATION 世界と日本の水事情」(水道産業新聞社)など著書・執筆多数。NHK、民放各局のテレビ・ラジオ番組などでも水問題をわかりやすく解説している。

仲村 修 (なかむら・しゅう)

1949 (S24) 年5月、愛媛県西予市生まれ。早稲田大学法学部卒業。1974 (S49) 4月㈱工業時事通信社 (Industrial News Agency) に入社、国土版編集部、下水道記者。1年9ヵ月後に退社。1976 (S51) 年4月㈱公共投資ジャーナル社設立。1980 (S55) 年6月に社長就任。以後、40年間社長を務める。その後、会長職を経て2023 (R5) 年3月特別顧問就任、現在に至る。

能登半島地震について(吉村氏 談)

能登半島は今、大変なことになっています。先日の日本水フォーラムの理 事会でも話題になりました。ごみの問題では、災害廃棄物が年間ごみ発生量 の 64 年分です。下水道管は 700km 以上あるのに、400km はまったく調査 ができていない。仮に水道が復旧しても、下水道が復旧しないと汚水がどん どん地下に浸透してしまう。地震で地盤が最大4m隆起し、平均2mも動い ているので、どんな耐震管でも壊れます。七尾市の水道は復旧するのに半年 はかかるのに、輪島市は来月に断水が解消します。その違いがどこにあるか というと、輪島市は地下水が水源なので、現地の浄水場を復旧すれば水を確 保できる。七尾市の水道は 100km も離れた手取川の県水を受水している。 100km も離れていると高圧で送るので、道路の地下 5 m のところに送水管 が埋設されて、壊れているから簡単には復旧できない。七尾市には昔、地下 水源があったが、人口が増えて、県水の方が低コストということで切り替え ている。手取川からの送水を待っていたら復旧はいつになるのか分からな い、これはリスク管理の問題です。2021年の和歌山市の水管橋崩落事故で も、浄水場を一つ廃止して水管橋で送るように変えていた。対岸の浄水場を 残していなかったために、市民1万人以上が1ヵ月も水道を使えなかった。

上下水道のような公共インフラは効率やコストだけでなく、災害が起きた時のリスクを考えておくことが大事です。



石川県珠洲市の被害状況(出所:公益社団法人日本下水道協会ホームページ、https://www.jswa.jp/2024/02/16/34371/)

また、東日本大震災の2週間後、被災地に行きました。東京からの道路は 封鎖され、秋田まで飛行機で飛んで、秋田からはディーゼルで走る車を借り て、石巻市や気仙沼市に入った。後に防衛大臣になる宮城選出の小野寺(五 典)議員と会って、余震が続く中、どう復旧させるか、蠟燭を囲み話し合っ た。災害復旧では原状回復が予算措置の原則になっています。しかし、災害前の状況に復旧させても住民が戻ってこないケースもあった。これは能登半島でも同じです。日本全国で過疎化が進んでいるので、原状復旧でないと予算を付けないというのはおかしい。例えば、水道も下水道も持続可能な小規模分散型に切り変えるとか、将来を見据えて復旧・復興する必要があります。災害復旧の法律を変えないといけないと思っています。



東日本大

震災から2週間後、現地に入った吉村氏。日本を支援するため米軍が「トモダチ作戦」を実行していた(写真:吉村氏提供)